# ランサー(山内選手)今年もシリーズチャンピオンに決定！

**'83JAF全日本ラリー選手権**

83年2月、恒例の赤城山小沼の氷上トライアルによって今年も又JAF戦の激戦の幕が開いた、昨年は圧倒的タイム差で快走した4WDに対して、今年は2WD勢も健闘したが、わずかに及ばず4WDの2連勝に終ったDCCSウインターラリー。そして事実上のシリーズ開幕となる〝関西ラリー'83〟昨年は地元スペシャリストの〝ゴーチン〟こと後藤選手がランサーターボの初戦を飾った事は記憶に新しい。その後藤選手、今年はジェミニによる挑戦である。ADVANランサーを駆る山内選手とシ烈な争いの結果、またしてもゴーチン優勝、山内選手は第1戦に引続き2位入賞でポイントトップに立つた。続いて舞台を九州に移した第3戦。昨年は、神岡・羽豆の若手による1・2フィニッシュで新時代の幕開けを予想させた〝ACKスプリングラリー〟、今年は満を持した山内選手の久々の優勝、そして又第3ステージ激走により羽豆選手の2位入賞、3位には関西の走り屋松本選手、そのわずか1秒後に大庭選手が4位、ADVANチーム石黒親分悲願の1・2・3フィニッシュがまたしても夢と消え去った。波にのった山内選手は続く第4戦〝ツールド四国〟でも連続優勝を決め、早くも今年のチャンプに王手をかけた。再び九州へ戻った第5戦、混乱のうちに第2ステージで打ち切りとなったこのラリーはポイント対象外との判定を受けた。久々に北海道を舞台とした第6戦〝チポーラリー〟昨年まではノンタイトル戦であったが羽豆選手が3連勝しており大きな期待を背おってNO.1でスタート。だが、濃霧と雨の悪コンディションのもと、第1ステージ最終CPを目前にして次々と続発するリタイヤ組の中に含まれてしまった。最後に勝利の女神が微笑んだのは昨年のチャンプ神岡選手であった。

しばしの夏休みの後、今年のチャンプの行方を決定する第7戦は秋田へ移る。しかしこの〝鳥海ブルーラインラリー〟はJAF戦初の死亡事故発生という悲しい結末で第1ステージのみで打ち切られた。浮きジャリの多いコースはゼッケン前半の選手に不利な戦いとなり、往年のリトルジャイアンツ、綾部選手の久々の優勝となった。シリーズポイントは松本選手のリタイヤによりADVAN山内選手のものとなり、同時にランサーターボが連続チャンピオンカーに決定した。

シリーズチャンピオン山内選手と山口選手(左上)と第4戦ツールド四国を走った山内ランサー

**戦　績　表**

| | 第1戦 2/12～2/13 | 第2戦 4/2～4/3 | 第3戦 4/23～4/24 | 第4戦 5/21～5/22 |
|---|---|---|---|---|
| | DCCS ウィンターラリー | 関西ラリー'83 | ACK スプリングラリー | ツールド四国 |
| 1 | スバル4WD (清水／大沢) | ジェミニ (後藤／伊藤) | ランサーターボ (山内／山口) | ランサーターボ (山内／山口) |
| 2 | ランサーターボ (山内／山口) | ランサーターボ (山内／山口) | ランサーターボ (羽豆／田口) | ランサーターボ (加勢／林) |
| 3 | スバル4WD (加藤／海野) | シルビアRS (松本／片山) | シルビアRS (松本／森) | シルビアRS (松本／森) |
| | **第5戦** 6/4～6/5 | **第6戦** 6/25～6/26 | **第7戦** 8/27～8/28 | **第8戦** 10/8～10/9 |
| | KOC クロス&イーグル | チポーラリー イン北海道 | 鳥海ブルー ラインラリー | R-8 Rally&ラリー |
| 1 | セリカGT-T (桜井／岸保) | カローラレビン (神岡／佐久間) | カローラレビン (綾部／山本) | ? |
| 2 | カローラレビン (堀田／稲田) | カローラレビン (二戸／村上) | カローラレビン (堀田／稲田) | ? |
| 3 | ジェミニ (鳥越／宮崎) | ランサーターボ (藤田／吉田) | ランサーターボ (藤田／吉田) | ? |

# '83 1000湖ラリー 現地レポート

グループBカー(Gr-B)による戦いが本格化した'83WCRシリーズ、昨年は混走を許されたグループ4カー(Gr-4)は引き続き参加を許されるものの、同時に大きな制約を受ける事となった。それは、①WCRポイントの対象外、②シードドライバーの参加不可等である。昨年圧倒的勝利を収めたアウディチームは、昨年とほぼ同仕様の車を早くもGr-Bとして再認可を受け、4WDのアドバンテージを生かして、必勝体制を組み、昨年から、最も早くGr-Bを送り込む、ランチャチームは、昨年の経験を生かして熟成を重ねたランチャ・ラリーでこれを迎え撃つ構えであり、事実上、アウディVSランチャのチャンピオン争いの様相を呈していた。第7戦〝ユダスルーラリ〟を終えた時点でランチャの4勝2敗という成績に対して猛反撃に出るアウディチームは第8戦1000湖ラリーにも必勝の体制で出場してきた。その中にあって、我らがチーム・ラリアートは、ヨーロッパに於ける前線基地を昨年までのオーストリア・デンツェル社から、イギリスへと移しアンドリュー・コーワンをボスとして、次期ラリー車の開発拠点とする一方、この1000湖ラリーに、ランサーターボを更に改良し、1台を出場させた。新チーム・ラリアートの出場体制は、Gr-4カーではシードドライバーの参加が認められていないことからエース、クーラングに代って今フィンランドで最も注目されているオペルのエースドライバー、ヘンリー・トイボネンの弟であるハリー・トイボネンがステアリングを握る。その実力の片鱗はスタート前日に行なわれた、プレス向けのSS2を使ったタイムアタックで早くも披露された。昨年のトップタイムが1'50"(ミッコラ・アウディ)2位が1'51"(クーラング・ランサー)に対して、昨年と同仕様のランサーターボでハリーは1'50"をマークしたのである、しかし、今年のWCRでしのぎを削るアウディとランチャは、この時に何と1'44"、1'45"というとてつもないタイムをマークしており、マシン熟成のテンポの早さを見せつけていた。これら、アウディ、ランチャを始め、オペル、日産、トヨタと久し振りにほとんどのワークスチームが顔をそろえた、'83 1000湖ラリー、並いるこれら強豪の中にいて、健闘するランサーターボ、第1ステージを終了した時点で15位、トイボネンは期待に答えていた。車への慣れも全くないハリーはSSごとにペースをあげSS34を終了した時点では、11位に浮上してきていた。しかし、このSS34でトランスミッションに不調をきたし、サービスポイントへ急ぐランサーターボに、勝利の女神はそっぽを向いてしまった。急造ランサーに起った突然のエンジンストップである。サービス隊との連絡もとれず、あせるトイボネン、通りがかったオペルチームの助けを借りてやっとサービスポイントに着いた時には、約20分のタイムロスとなっていた、ロードペナルティは30分でタイムアウトとなる、トランスミッション交換に残されたのは10分、A.コーワンの指揮のもと、ベテランメカニックの手によってテキパキとトランスミッション交換作業は進められた、しかし、10分はあまりにも短かかった。ここで新生チーム・ラリアートの初挑戦は終った。ラリーの方は、SS1でフロント・デフトラブルの為遅れをとったミッコラの驚異的追い上げで2連勝を飾り、対ランチャに3勝4敗とせまり、今年のチャンピオン争いが再び激烈化していく事は必至となった。

パワフルなコーナリングを見せる1000湖ラリー出場車

**'83 1000湖ラリー結果**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1位 | アウディクアトロ | (ミッコラ) | 4°23'44" |
| 2位 | アウディクアトロ | (ブロンテスト) | 24'05" |
| 3位 | ランチャラリー | (アレン) | 24'23" |
| 4位 | アウディクアトロ | (エクルンド) | 26'03" |
| 5位 | ランチャラリー | (アイリッカラ) | 32'09" |
| 6位 | セリカターボ | (カンクネン) | 34'49" |

# 岩手三菱ダイヤモンドラリー開催

## 東北ジュニアシリーズ第5戦

CMSC岩手 佐々木 学

まだ暑さも残る9月3日、毎年恒例となっている、当クラブ主催'83岩手三菱ダイヤモンドラリーが開催された。今回は東北ジュニアシリーズ第5戦ということもあり、我がチームが一丸となって、春から準備を整えてきた成果が問われる時がいよいよやってきたという感じであった。

コースは、第1ステージが、盛岡市の中心から北にはずれた「マッハランド」をスタートし、南東に走る道。第2ステージは、第1ステージのスタート地点から北東に走り、最後に盛岡市内を縦断、花巻にほど近い志和稲荷温泉をゴールとする全280kmである。

心配された天候も我々に味方したのか、幸い晴れ。午後、早々にテント設営。60台の出場車、サービス車等の駐車場整理などを済ませるともう受付時間の4時。人の動きがにわかにあわただしくなり、活気に満ちてきた。いよいよ、準備に準備を重ねたこのイベントが始まるのだ、と皆、心をはずませた。午後7時、岩手三菱自動車の白土社長を迎えて、開会式。8時01分、1号車が勢い良くゲートをくぐる。ラリーの幕が切っておとされたのだ。21ケ所のチェックポイントを、オフィシャルが9班に分かれて担当、すべてがスムーズに進行して行った。途中、あるチェックリーダーが迷子になったりして、一時は冷や汗をかいたりする一幕もあったが、誰もが皆、熱心に働いてくれたことは、クラブとしても非常に中味の濃い活動となったと思う。熱戦が展開された夜も明け、翌朝、全車大きな事故もなく無事帰還。午前10時、表彰式。Bクラス優勝はランサーターボの遠藤／松本組、Aクラスは武蔵／吉田組が獲得。入賞者には数々の賞品が手渡された。レディス賞などもあり、なごやかな雰囲気だった。閉会式も終え、大盛況のうちに幕を閉じることができた。参加者の皆さんお疲れさま、そしてオフィシャルで頑張った皆さん、本当にご苦労様でした。

多数のランサー参加者の中から。

女性会員に支えられた「CMSC岩手」。

賞品の豊富さに参加者びっくり。

# CMSC帯広近況レポート

CMSC帯広 羽賀一夫

北国のここ北海道の最大の特徴は、何といっても、氷上イベントが数多く開催されることでしょう。その道内で帯広はモータースポーツに熱心な人達が最も多い地域として知られていますが、当クラブ員も、積極的に参加することを旨とし、大活躍しています。先日、8月7日に開催された第4回北海道ダートトライアルフェスティバルに帯広支部として大会組織副委員長に鎌田幸広会長、大会事務局に小生、他7名が当クラブから参加、130台のエントリーと、約10,000人のファンを集めて大成功に終わることができました。尚、当クラブ員の今年1月から現在までの主な戦績（紙面の都合で全部ご紹介できないのが残念ですが）をご報告します。

2月5・6日　第18回塘路湖氷上タイムトライアル
C－II 1位青沼達也(A73)　2位石崎一彦(A73)　D　2位三浦勝美(A72)　クローズド1位三浦勝美(A175T)　2位石崎一彦(A175T)

2月12・13日　第2回阿寒湖氷上タイムトライアル
B－II 7位三浦勝美(A175T)　C－II 1位青沼達也(A73A)　3位石崎一彦(A73A)　D　4位山崎康正(A72M)

2月26・27日　第2回根室氷上タイムトライアル
B－II 3位三浦一美(A175T)　C－II 1位石崎一彦(A73A)　D　7位加藤由記(A72M)

5月1日　第1回BS杯争奪ハイスピードジムカーナ
（オール北海道チャンピオンジムカーナシリーズ第1戦）白糖町庶路釧路カーランド　B－II 2位青沼達也(A175T)　D　2位鎌田幸広(B110)

5月29日　OSCダートトライアル
（北海道トライアルチャンピオンシリーズ第2戦）札内川特設サーキット　B－I 4位岩城 茂(KP61)　D　3位青沼達也　9位石崎一彦

6月12日　第24回SMCダイナミックトライアル
（北海道トライアルチャンピオンシリーズ第3戦）登別特設サーキット　B－II 2位岩城 茂(KP61)

7月23・24日「交通遺児チャリティー道新スポーツ杯争奪
ダイヤモンドチャレンジラリー'83」
（CMSC札幌主催）B　4位三好／佐藤　6位青沼／羽賀

8月6・7日 第4回北海道ダートトライアルフェスティバル
札内川特設サーキット　B－I 7位岩城 茂(KP61)　D　5位青沼達也(A174A)

特殊スパイク"チューリップ"

以上です。

今後次の方針に基づき活動して行くつもりです。

①開催イベントを年1回行う様体制固めをする。
②北海道トライアルチャンピオンシリーズ優勝をめざしクラブ内でバックアップ。
③氷上シリーズ優勝を'84年度も果す。
④ラリーの成績が不調なので、体制固めと練習に力を入れる。

いよいよスタートを切ったCMSCジャーナル。これこそ、会員の皆さんご自身のもの以外の何ものでもありません。今後は、皆さんが作るページをどんどん設けていきたいと思います。ついては、全国から次の各コーナーに情報をいただき、ジャーナルの大きな意義のひとつである、「みんなのコミュニケーション」を図っていく所存です。字数や体裁は問いません。編集室宛にどうぞふるってお寄せください。

①オピニオンのページ
有意義で、建設的な意見交換の場にしたいと思います。日頃、感じていること、言いたいこと、また、三菱自動車に対する意見、質問など、何でもけっこうです。

②「見て下さい！MY RALLY SPECIAL」
自分のラリー車は、こんな所が一味ちがう、こんな組みかたをしてある、等々……。あなたの独創的な工夫が、全国で話題を呼ぶかも知れません。写真（カラー。カラースライドならより鮮明に出ます。）をぜひ添えていただくことをお願いします。

③戦績報告
あのラリーに出た、このトライアルに出た、そして勝った――など、あなたの戦績をお知らせ下さい。スペースがある限り、もれなく掲載します。

※あて先／㈱シマ・クリエイティブハウス内 CMSCジャーナル編集室 〒107 東京都港区南青山7-4-20 ☎03(409)8881